

令和元年度 第4回 竹原市地方創生推進会議 議事録

日時 令和2年2月17日(月)

場所 竹原市役所3階 第1・2委員会室

事務局	<p>皆さま本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻までには若干ございますが、本日出席を予定されております皆さま、お揃いになりましたので、ただいまから、令和元年度第4回となります竹原市地方創生推進会議を開催いたしたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>それでは開会にあたり、市長からひと言ご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>(挨拶)</p>
事務局	<p>それでは本日の出席委員の皆さんの状況をご報告申し上げたいと思えます。</p> <p>本日は、6名の方が欠席されています。</p> <p>それでは早速ではございますが議事に入りたいと思えます。</p> <p>これからは会長のほうに進行のほうをお任せしたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
会長	<p>皆さんおはようございます。</p> <p>それでは、議題の1、先ほど市長からもお話しございましたように、策定に向けての最後の会ということでございますので、特に前回までの修正点について事務局からご紹介を受けたあと皆さまがたのご意見をお伺いしたいと思えます。</p>
事務局	<p>それでは、説明に入る前に、資料を確認いたします。</p> <p>一番上に会議次第、その次に配席表、そして令和元年度第4回竹原市地方創生推進会議の論点について、そして資料1から5まで、最後に委員名簿となっております。</p> <p>過不足はございませんでしょうか。</p> <p>では、説明に入ります。</p> <p>資料1をご覧ください。第3回 竹原市地方創生推進会議で示した素案から、修正及び追加した点を説明いたします。</p> <p>資料3 竹原市人口ビジョン案 28ページから29ページをご覧ください。竹原市人口の将来展望について記載しています。</p> <p>平成31年3月に策定した第6次竹原市総合計画において推計した人口推移を、竹原市人口ビジョンにおいても共有するという考えはそのままに、将来展望を明確に記載しました。</p>

次に資料4 第2期竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略案 をご覧ください。

前回の会議においてご意見・ご指摘を頂いた部分について、修正を加えています。

2ページを開いてください。「2戦略の推進について」です。

(2) 新しい時代の流れを踏まえた施策の推進をご覧ください。この部分は、12月に閣議決定された国の第2期総合戦略と書きぶりが異なる、というご指摘を受け、国の第2期総合戦略をもとに、当市の第2期総合戦略にあわせて修正しています。

13ページをご覧ください。「良好な居住環境の整備・都市機能の集積と賑わいの創出」の項目です。

こちらでは、内容がわかり辛いというご指摘を受けましたので、内容の意味が明確化するよう修正しました。

14ページをご覧ください。「災害に強いまちづくり」の項目です。

こちらでは、取り組むべき施策の方向性について、自助・共助からの視点を明確に加えたほうがよい、というご指摘を受けました。こちらへは、地域防災リーダーの養成や、避難勧告等の発令基準について市民へ周知を行うなど、自助・共助の視点から取り組むことを追記しました。

資料1にお戻りください。続いて、(2)数値目標及び重要業績評価指数、KPIの設定 です。ここは、前回会議の段階では調整中でした。

基本目標の数値目標、及び各取組の方向性における重要業績評価指数KPIの設定については、PDCAによる進行管理が適切に行えるよう、定量的な指標で、1年間で確実に把握ができるものを基本として設定しています。

また、基本目標における数値目標の設定が困難なものについては、目指す姿の達成に寄与する施策レベルのKPIを数値目標として設定しました。

基本目標を数値で表した数値目標において、説明をいたします。

資料1と共に、資料4 竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略案 5ページの施策の体系図を併せてご覧ください。

まず、基本目標1、「しごとをつくり安心して働けるようにする、竹原への新しいひとの流れをつくる」です。

ここでは、社会減の緩和を課題とし、基本目標を数値化した、数値目標の項目を、「転出超過数」と「課税状況調べによる市町村民税の納税義務者数」としました。

「転出超過数」については、第1期総合戦略から引き続き目標とし、仕事づくりや、移住・定住の促進により、移住・定住している人が増えている状況を、数値でより明確に記載したものです。

「課税状況調べによる市町村民税の納税義務者数」については、市税務課が毎年集計を行っている調査「課税状況調べ」から採用しています。

この項目は、「仕事づくり」の視点から、「給与所得、営業所得、農業所得」により納税義務が発生した住民の数を合計することにより、働いている市民の数を知る指標として設定しました。

数値については、今後人口減少が見込まれる中、働いている人の割合を保つことを目標とし、設定します。

続いて、基本目標2、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」です。

この項目は、「少子化対策」の視点から、基本目標を数値化した、数値目標の項目として、出生率を掲げました。なお、こちらは人口千人あたりの数値です。

ここでは、人口減少が進む中、出生数の減少を最小限に抑えることを目標とし数値を設定しました。

続いて、基本目標3「年齢や性別に関わらず多様な人々が元気なまちをつくる、竹原の魅力、個性を活かして交流を拡大する」です。

この項目は、少子高齢化の進展に対する、目指すべき将来の方向性として「賑わいと活力の創出」を掲げています。

しかし、施策内容が多岐にわたり、基本目標を数値化した、数値目標を定量的に示すことが困難であると判断しました。

特に、施策の方向性「地域力の強化」については、内容が多岐にわたるため、目指す姿に寄与する施策レベルの重要業績評価指数、KPI を数値目標として設定しました。

まず、平均自立期間とは、「日常生活動作が自立している期間の平均」を指標とした健康寿命を算出したもので、国保データベースシステムにおいて毎年算出するものです。

平均自立期間についての考えは、国民健康保険中央会の資料により、示されております。

ここでは、広島県の平均自立期間の最新値を目標値として掲げ、健康まちづくりに取り組むことで、生涯のうち健康な期間を延伸させることを目標としています。

次に、給与収入のある女性人数と、給与収入のある65歳以上の市民の数です。これは、多様な人材が働きやすい環境が整い、女性や高齢者

が雇用されている状況を図る指標として設定しました。

近年の傾向としては、給与収入のある女性の割合が増加傾向であるため、割合を増やしていくことを目標としました。

給与収入のある 65 歳以上の市民の割合は、近年横ばいで推移しており、割合を保つことを目標としました。

次に、「地域交流センターの利用人数」です。

ここでは、多くの人々が地域活動への参画や、多様な生涯学習の機会を通じて、生きがいを感じながら、地域の担い手として賑わいを創出していることを表す指標として設定しました。

続いて、観光消費額です。こちらは、竹原の歴史・文化やたまゆら、マッサンなどの地域資源を活かしたまちの魅力向上により、観光客が増え、外からの賑わいを獲得していることを表す指標として設定しました。

資料 1 の裏面、2 ページをご覧ください。

(3) 令和 2 年度実施事業の記載について です。

第 2 期総合戦略を推進するため、令和 2 年度において実施予定の主な事業を、第 2 期総合戦略へ書き込みました。

ここで、資料 4 第 2 期竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略案 7 ページをご覧ください。

「雇用の確保と人材確保・育成への支援」で、サテライトオフィス等の誘致活動に取り組むことについて記載しました。

10 ページをご覧ください。「6 次産業化と流通販売促進」の項目へ、地域おこし協力隊の活用について記載しました。

12 ページをご覧ください。「移住に係る情報発信と受け入れ環境づくり」の項目です。

こちらへは、無利子による奨学金貸付制度の利用者へ、居住など条件を満たせば貸付金を免除する制度の創設について記載しました。

14 ページをご覧ください。13 ページより続く「良好な居住環境の整備・都市機能の集積と賑わいの創出」です。

こちらへは、竹原駅前エリアの低未利用地（空き家・空き店舗・空地など）の利活用を図り、来訪者が居心地よく過ごせる空間づくりへの取組について記載しました。

15 ページをご覧ください。「持続可能な公共交通体系の構築と利用促進」です。

こちらへは、竹原市公共交通網形成計画に基づき、実証運行を行う等の取組について記載しました。

28 ページをご覧ください。「確かな学力」の向上、です。

こちらへは、Wi-Fi 環境の整備や、生徒の海外交流などを実施する取組について記載しました。

31 ページをご覧ください。「関係人口の創出・拡大」です。

こちらへは、竹原ファンクラブの創設や、ふるさと納税募集サイトの拡充などを行い、定住人口にも交流人口にも該当しない、地域や地域の人々と多様に関わる人を増やす取組について記載しました。

続きまして、「パブリックコメントの実施結果」です。

資料 2 をご覧ください。

竹原市人口ビジョン素案及び第 2 期竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のための意見募集、パブリックコメントの実施結果です。

令和元年 12 月 27 日金曜日から、令和 2 年 1 月 26 日日曜日までの 1 か月間、市民等を対象とした、意見募集 パブリックコメントを実施しました。

実施結果は、意見提出者が 3 名、意見提出状況は、人口の見通しに関するものが 1 件、基本目標に関するものが 1 件、施策に関するものが 1 件、具体的な取組に関するものが 5 件、合計 8 件でした。

なお、意見への対応は、第 2 期総合戦略へ反映するものが 1 件、意見の趣旨がすでに内容に盛り込まれるなど、総合戦略等の修正を伴わない者又は今後の取組の参考にするものが 7 件でした。

資料 2 の 2 ページをご覧ください。上から二つ目、「施策に関すること」です。意見概要は、「地域を支え活躍する人材の育成・環境づくり」では、「安心して通える学校づくり」を一番目の取組として掲げ、「生徒指導の強化などに取り組んではどうか」という内容でした。

これに対し、市の考えとして採用した部分を説明します。

資料 4 27 ページをご覧ください。

「地域を支え活躍する人材の育成・環境づくり」の枠内 1 項目目です。こちらへ、人材育成及び人材が活躍しやすい環境づくりをより充実・強化するという視点から、「地域と連携・協力しながら「地域と共にある信頼される学校づくり」と言葉を加えることで意見を採用しました。

最後に、資料 1 の 5、「第 2 期総合戦略 令和 2 年度実施事業（案）について」です。

第 2 期総合戦略を推進するため、令和 2 年度において実施予定の主要な事業を、「資料 5」へ記載していますので、ご確認ください。

第 2 期総合戦略の推進にたり、令和 2 年度に行う事業のうち、主要な事業を申し上げます。

1 ページ

<p>会長</p>	<p>魅力ある雇用の確保 サテライトオフィス等誘致促進事業 地域産業の振興 地域おこし協力隊事業</p> <p>2 ページ</p> <p>暮らしやすい環境の創出 駅前賑わい空間再生事業</p> <p>3 ページ</p> <p>出会い・結婚のサポート 婚活イベント支援事業 子育て支援 たけのここども園運営事業</p> <p>4 ページをご覧ください。</p> <p>健康なまちづくりの推進 介護予防支援事業 多様な人材の活躍促進 地域生活支援体制整備事業</p> <p>5 ページをご覧ください。</p> <p>未来の人材育成推進事業 義務教育のグローバル化促進分 関係人口の促進 シティプロモーション事業</p> <p>です。</p> <p>事務局からの説明は以上です。</p> <p>ありがとうございます。前回の皆さまがたからのご意見とそれから一部はパブリックコメントのご指摘を踏まえて最終案を作成したということですが、それぞれの立場から何かお気づきの点ございましたら手を挙げていただければと思います。</p> <p>それでは私から、基本的にはこれでいいと思いますが人口の見かたです。大変厳しい数値が出ておりますが、人口ビジョン、むしろ総合戦略の本文ですが、K P I で使っているところ、人口千人当たりの例えば出生数、出生率などは他の市町と比較するうえでは非常にいい指標、全国的な比較もできると思います。</p> <p>ただし平均年齢が若い地域と平均年齢が高い地域とでは、やはり有利、不利があるのでそのあたりを解釈するときには注意しておかなくてはいけないというふうに思います。</p> <p>それから資料 1 の下の K P I をご覧ください。</p> <p>特に女性の就業者の指標について、給与収入のある女性の人数、5,514 人から 5,450 人といわゆる減る目標があります。これは理解している人は当然だと思うのですが、カッコ書きでその分母となる数を参考としておいていかれたほうがいいかなというように思います。</p> <p>比率は出さなくても見れば解りますので、分母が減っている中でここまで頑張るという数値目標にもなるかと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>これは、一部修正と、数値の解釈の注意事項の記載、ということの発</p>
-----------	---

事務局	<p>言と理解していただければと思います。</p> <p>本体総合戦略の案で 34 ページ目観光のところですが。前回までは宿泊というのが明記されたと思うのですが、滞在時間、確かに滞在時間のほうが広範囲で、その中に含まれるといえは含まれるのですが、逆に言えば宿泊して帰ってもらってもいいと思うのですが、これを消された趣旨がもしわかりましたらなにか。</p> <p>宿泊の件数については一昨年の 7 月豪雨災害で市内宿泊施設の一部が今営業を停止しているという状況があります。</p> <p>宿泊そのものの件数については被災前と比較すればだいぶ総数が少なくなるということもあり、宿泊という表現はやめて滞在時間を少しでも長くして観光消費額をあげていくという表記にしたとご理解いただきたいと思います。</p>
会長	<p>わかりました。色んな状況、事情を勘案したということで仕方がないと思います。</p> <p>もう一つ人口ビジョン、資料 3 のほうですね。</p> <p>17 ページ目、産業別の就業者、それから 17 ページ目は産業別の特化係数、この特化係数というのは、全国同じような分布だったら、東京も 10 パーセント、広島も 10 パーセント、竹原も 10 パーセントというようになるのですが、やはりその地域に集まっている産業があるから全国を 1 とすればどれだけ特化しているかという事ですよ。確かに重要なのですがこれだけではちょっと実態がわかりにくいというのがあります。</p> <p>もう一つは、ここで見ているのは夜間人口、竹原の市民だけ、これによって市民所得の指標になるのですけれども昼間どういった人たちが活動しているか、それが雇用の機会だったり、市内総生産の資料になったりするわけですね。</p> <p>参考ですが、左側 16 ページ目のグラフ一番右側が平成 27 年の国税調査、これは竹原に住んでいて仕事をしている人を示し、どこで仕事をしているかは問わないのです。市外勤務を含め、合計で 11,852 人の人が働いている訳です。</p> <p>ところが、昼間人口、昼間に市外から竹原に入っている人ももちろん出ていく人も含めるのですが、この数が 11,590 人ぐらいです。</p> <p>夜間人口との差を見ると、結局は昼間人口のほうが 260 人ぐらい少ないのです。それだけ外に雇用の機会を求めている。特に大きいのは製造業です。製造業 460 人外にでていっています。確かに周辺、呉、東広島、三原と大きな工場等ありますのでこれはもう仕方無いかと思います。</p> <p>重要なのは逆に入ってきている人、昼間人口が多いとこなのですが、</p>

	<p>電気ガス等も多いのです。市民が 213 人なのですが市民と市外の人を含めると 266 人、50 人ぐらい昼間人口が多い。もっと多いのが医療福祉なのです。医療福祉従事者の昼間人口が 280 人多い、それからさらに教育学習支援業が 50 人多いということでこのあたりが結構、竹原の特徴です。</p> <p>今後は、先ほど申し上げたように、夜間人口も大事なのですが、昼間こういった雇用機会があつてこういった市内総生産に繋がっているかという視点も併せて重要なので、具体的に雇用機会、就業機会、それからこういった産業を振興していくかということを考えるうえでも、昼間の従業者、昼間人口にも注意しておく必要があるというふうに思いました。原稿はこのままでいいのですが、感想です。</p> <p>それでは順番に人口ビジョン、総合戦略の案につきましてご意見をお伺いできればと思うのですが。</p>
委員	<p>労働者の立場ということから申し上げますと、どちらかという仕事 の安定のところ、企業誘致、新規雇用者数の増加というのがあげられて いますけれども、これからだんだん働く人が少なくなってくるという のが現実で企業も人を集めるのが厳しい状況が今後予想されています。</p> <p>そのような中で企業誘致をされる場合に、やはり働くところとして選 んでもらえるような企業を誘致してこない、人を集める段階で集まり にくい、という形になりますので、その辺も注意して進めて いただきたいと思います。</p>
委員	<p>先日ニュースで、宮城県が県内の介護施設で働く職員の週休 3 日の実 現に取り組む、ということが報道されていきました。週休 3 日制を導入す ることで年間の休みが 50 日ぐらい増える訳で、自分の時間を大事にし たいという若い人のニーズを捉えた思い切った方針を示されたわけ です。</p> <p>何かこのような思い切ったことをしないと、目標を達成できるかでき ないかは別として、挙げた目標の達成に向けて頑張っている、というの が目に見えにくいと思ったのですが、今回新しい事業がいろいろあるの ですが、目玉になるような事業というのは何になるのでしょうか。</p> <p>あともう一点、本年度のハローワーク竹原管内の高校の就職希望の状 況、5 月ぐらいに調べるのですが、生徒数が 200 人ぐらいいるのですが、 就職希望はだいたいその 4 分の 1 ぐらい 50 人ぐらいですね。その子た ちが地元で就職するか近隣へ就職するかなのですがそれ以外、150 人ぐ らいの子というのは全部進学で外に出て行く訳ですよ。竹原は大学と か専門学校というのがないのもう毎年そのぐらいの子が出て行くとい</p>

<p>事務局</p>	<p>う状況です。</p> <p>前の会議でも一回竹原から出てもらってよいのではないかと、という話もあり、市内の状況もあるので出ていくのだと思うのですが、出て行った子たちが、就職は地元竹原でとってくれるような活動が大事なのかなと思います。学校とか地域、家庭で「竹原いいところだよ。」と、「竹原で就職しよう。」というのを言い続けることが大事なのかなと思います。以上です。</p> <p>令和2年度の目玉事業についてのご質問でございました。</p> <p>ご承知のことと思いますが、先週の金曜日に本市の新年度予算についてプレス発表を行いました、その時の対応として、本市の目玉事業として考えた部分は、まず資料5の2ページ目をご覧ください。</p> <p>こちらの施策の方向性「暮らしやすい環境の創出」というところで、「駅前賑わい空間再生事業」というものがございます。</p> <p>これについては主な施策の内容といたしまして、竹原駅前地域の低未利用地の利活用をしっかりと図っていくと、エリア全体で市民や来訪者にとって居心地がよく歩きたくなる空間を創出するための取り組みを実施することでその下に掲げているような主な取り組みを4点掲げております。これについては、中国新聞の新聞報道でもあったように、若手職員のプロジェクトチームを組んで、そこからの提案事業ということもあり、一つの目玉です。</p> <p>もう一つ、その下に書いてある「地域公共交通の推進事業」です。市内で高齢者が非常に多くなっている状況で、地域公共交通としてバス路線、東西にはJR、南北にはバス路線が走ってはいるのですが、なかなか移動手段、特に高齢者の手段が非常に厳しい状況です。</p> <p>そのような状況で、地域公共交通の在り方を改めて考え、実証運行に向けた取組を令和2年度行っていくという取組があります。</p> <p>それともう一点、新たなこども園が今整備中でございます。</p> <p>この4月から開園されるということで、そのようなところも含めて、多様な保育ニーズにしっかり対応していく、また、様々な子育て支援施設になっていますので、それは引き続き継続してやっていく。</p> <p>中には継続事業でも、乳幼児医療の対象者拡大なども盛り込みながら子育て支援に取り組んで行くということでございます。</p> <p>4ページ目に書いてある未来の人材育成推進事業ということで、これはグローバル化の進展に対応して世界とつながりふるさと竹原を広く発信できるような人事を育成するための取り組みということでこの多様な取り組みを行っていかうと考えております。合わせてこの未来の人材育</p>
------------	---

委員	<p>成推進事業の中には、一旦竹原を離れる方について、奨学金、給付型の奨学金制度、一定の要件を満たせば給付額となる奨学金制度、その創設も含めてUターンの促進という観点での事業、それらがこの度の目玉事業と考えているところでございます。</p> <p>失礼します。教育関係のことになってまいりますけれども、将来を見通して生徒が帰ってくる、あるいは定着していくというようなことになっているのですが、高校サイドからいいますと、前期中等教育までの生徒を対象とした取組というところで、具体的に高等学校としての、実際には高校を経て市外に出ていくというようなことが多いものですから、試行的なものであってもいいので将来に繋がるような策をぜひご検討いただければというふうに考えております。以上です。</p>
委員	<p>失礼します。高等学校の視点からと観光の視点からいくつか感想なり今後の展望について発言させていただきます。</p> <p>一つ目が資料3の人口ビジョンの26ページです。以前の会議でもいわゆる若い世代が地元で専門学校や大学がないので出て行くというのはやむを得ないという議論がされており、1の(2)にも「10代の後半から」という記述があります。しかし今後、取り上げていただきたいのは、中学校・高等学校というさらに若い世代で、市外の学校に通学する生徒たちの状況をきちんと捉えてその原因等をしっかり踏まえた対策が必要だと思えます。行きたい学校へ行くというのは当然のことなのですが、やはり地元の学校で学ぶことの魅力があってこそその選択肢だと思えます。</p> <p>それから資料5の5ページの観光プロモーション事業についてです。どうしても首都圏や海外からの誘客というところがクローズアップされますが、一番身近な県内の観光客や県民が竹原に足を運ぶということが大事だと思います。それがリピーターに繋がると思えますので、そういったプロモーションの視点もぜひとも忘れないでいただきたいということ。</p> <p>また、一番下に海外インフルエンサーという記述がございます。県立高等学校ではすべての学校が姉妹校提携をしております。先日、竹原高校でも台湾から38名の生徒たちが初めて竹原を訪れております。その時に話題になったのが、ホームステイの希望です。そういった、学校だけでは実現が難しいことを市や地域で実現できれば、まさに将来に向けてのインフルエンサーを育てるきっかけになるのではないかと思いますし、それだけの魅力を竹原は持っておりインバウンド拡大の可能性があるとあります。そういったことにもアンテナを伸ばしていただいて、ぜひ</p>

委員	<p>ひとも活用をしていただければと思っております。</p> <p>まず、人口の将来展望（人口ビジョン 29 ページ）の資料を見せていただいた時に、驚いたのですが、10 年後、令和 12 年までは一定にゆるやかなペースで人口が減っていきますが、10 年後そこから先の下がり方というのはちょっと想像を絶するような落ち方になっています。</p> <p>10 年先というのは直ぐにやってくると思うのですが、今この会議等で話しているところはどこを見つめて話しているのかなという気がします。令和 10 年ぐらいまではこういったような人口ビジョンの話をしていけば何とかできるのかなという気もしておりましたけれども、この先を見るとこういったレベルの話で大丈夫なのだろうかという気がします。</p> <p>先ほど副会長から思い切ったことを行うべき、という話がありました。どこかで何か思い切ったことをしていかないといけないと、感想として思いました。</p> <p>先ほど会長からのお話で、昼間の人口と夜の人口の差の話題があり、教員については 50 名ぐらいが市外からの通勤とありました。</p> <p>現場を見ている人間として感じることは、現場へはほとんど地元の教員がおりません。かといって、市外へ出ている竹原出身の教員も少ないのが現状です。</p> <p>ではここはどうしていけばいいのかなと、今の子どもたちに「将来地元に戻って、教員をやってくれ。」というようなことを、直接働きかける必要があるのかもしれないです。それほど、今の学校にいる子どもたちといますか、これまでの子どもたちが学校という仕事にあまり興味を持っていないとか魅力を感じていないということであれば残念だなと思いますし、そういう教育に携わろうという子どもたちも地元で教育に携わろうという熱意のある子どもたちも育てていかなければならないなということを感じました。</p> <p>それから、交流センターの生涯学習支援の交流センターの目標の員数が増えておりましたけれども、地域センターの館長とお話しをさせてもらうこともありますけれども、利用者は今どうなのですかね。高齢者が増えているから増えているのかなと思ったらセンターの副館長が減っているというような言い方をされたと思うのですが、現実には利用者数は減っているのではないかという気がします。将来的にこれは増えるということはどういう手立てが必要なのか、求められているニーズはどのようなことかはちょっと感じました。我々これから退職していく世代がそういった地域に出て今の交流センターのようなところへ本当に行っ</p>
----	---

<p>会長 事務局</p>	<p>て生涯学習に関わるのだろうか、参加していくのだろうかというところからちょっとクエスチョンマークが頭の中でよぎり、何か考えていく必要があるのかなと思いました。</p> <p>最後に新しく事業でグローバル化、ICTに関わっての情報がWi-Fiの整備でありますとか海外交流事業等挙げていただいております。</p> <p>これは当初、私が出させていただいたときに外に向かってということで、しっかり背中を押していただけるようなものをと話しをさせていただいたことに対して具体的な形でこういったものが出てきたことに現場としては非常にありがたいなと思いましたし、これを生かして竹原で学ぶことの良さといいますかそういうことを感じてもらえるような保護者、地域の人たちにもアピールしていきたいというふうに思いました。もちろん子どもたちも夢を持って学ばせていきたいなということを感じました。以上です。</p> <p>今の指摘事項で特に市のほうで対応とかございますでしょうか。</p> <p>地域交流センターの利用者については生涯学習の拠点ということで公民館という位置づけだったところがございしますが、利用形態を多様化させるということも含めて地域交流センター化ということにいたしました。そういうことで利用者の増加も見込まれるのではないかとということでこうした成果指標とさせていただきます。</p>
<p>委員</p>	<p>今色々ご意見が出ておりますが、教育委員会発で「未来の人材育成推進事業」など個別の事業を挙げておりますが全体の流れを少しご説明させていただければと思います。</p> <p>「地域力の強化」ということで人材育成の部分では当然になるのですが、特に義務教育課程においてベースにあるのはコミュニティースクールやキャリア教育など、ある意味地域の方々の協働作業になるわけです。</p> <p>キャリア教育ということであっても、事業所や企業とのコラボレーションということで、コミュニティースクール、キャリア教育をベースにしまして、それから義務教育課程それから高等学校、大学ということで市の教育委員会としては大学生の奨学金基金を持っていますが、その基金をこれまで貸付事業しかしていなかった部分がある意味、一部休眠化している原資を教育振興のほうに吐き出していこうと、新年度から新しく未来の人材育成推進事業を行う予定です。</p> <p>中学校2年生を今想定しておりますけれども、海外への派遣をし、その後それをずっとやりつつ今度は高校生の短期留学へ波及していこうと考えております。</p>

	<p>そして、その後大学に進むときには一旦貸付の奨学基金をご利用いただき、帰ってきたらその奨学金を返さなくていいという制度で、今度は移住定住の部署が絡んできますので、それについては現在地域振興部など関係部局と調整をしておりますが、そういう就職や住居、住屋も含めて支援できるようなポータルサイトを開設して、小学校、中学校、高校、大学卒業後、帰ってくるための情報を常に発信し続けるという取組です。</p> <p>そういう取組を地域総ぐるみでやっていくという事で、あくまでも教育委員会としては今回、義務教育の我々の守備範囲のとこだけで見せていますが、構想としては全体的な流れがあるということで、先ほどの県立校の校長のお話しもございましたが、経済教育の中で高校もインターンシップございますのでそういったところの情報もそういったポータルサイトというかに関する支援サイトが充実してくればそのへんも一気通貫のような形で連続性のある事業が展開できるのではないかとということで、ちょっとそのへんの説明が不足していたと思いますので、その辺皆さんそのようにご理解いただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。ほかにどなたか。最終回ということですので、なにかお気付きの点がありましたら。</p> <p>人口ビジョンの案、それから総合戦略の案、去年までの指摘いくつか表現等の指摘等いくつかありましたけれども、それを踏まえただけで皆さまの合意といいますか了承が得られたという具合に一応考えてよろしいでしょうか。細部につきましては事務局と相談させていただきながら形にしていきたいと思っております。よろしいでしょうか。</p> <p>特になければこれで終わらせていただいて、今後のスケジュール等見直しをご説明いただければと思います。</p> <p>それでは一旦すべて進行お返しいただくということでよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日は大変さまざまなお意見をいただきました。誠にありがとうございます。今後のスケジュールについては本日の会議で出されました意見を踏まえまして最終調整をおこないまして3月中に完成させていただこうと思っております。完成したあかつきにはまた各委員に配布をさせていただこうと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。最後に本日の会議を踏まえまして市長からひと言よろしくお願いいたします。</p>
<p>市長 事務局</p>	<p>(挨拶)</p> <p>それでは以上をもちまして第4回竹原市地方創生推進会議を終了したいと思います。また委員の皆さまにおかれましては長い間会議に参加していただきご議案いただきまして誠にありがとうございました。以上を</p>

	もちまして終了いたします。ありがとうございました。
--	---------------------------